～さっぽろ・消えた町角～

旅のドキドキ

近頃、ドキドキする事がなくなったなあ。若いころなら、期待で胸がドキドキする、心配で心配でドキドキするなんてのはしょっちゅうだったのに。今は息切れや血圧のせいで動悸が激しくなるのが関の山。とんと世の中がつまらなくなってきた。

でも先日、国内旅行のツアーに申し込んでみて、その前日「さあ明日から数日、旅に出るんだぞ」と思ったら、けっこう小さな興奮があって、ちょっぴりドキドキした。〝旅〟って言葉は人をドキドキさせる要素があるのかもしれない。

海外旅行のツアーは何度も経験しているが、国内のそれは実は初めて。というのは、町なかをツアーバッヂを胸につけて、ゾロゾロ歩いている一団を見るにつけ、どうにもヤボで格好が悪いと感じていたせいもある。できれば、バッヂを外して、ツアーの一員ではないようなふりをして、皆と付かず離れずに歩くのはどうだろう。旅行前のドキドキには旅への期待と同時に、どうすれば〝おのぼりさん〟に見られずにすむかという、バカげた工夫をするドキドキも混っていた。

ところが、顔を合わせた添乗員の第一声は「バッヂは必ず目立つ所に」というものだった。場所は空港の人込みの中でだ。案外知り合いの誰かがこちらを眺めているかもしれないではないか。ポカンとして添乗員の旗の下に立っている私を見て嘲っているかもしれない。恥ずかしいじゃないか、と、ここでもドキドキした。

でも初顔合せの添乗員にしてみればバッヂこそが同行者の目印。これをつけていなければ航空券だって手渡せない。観光地に行けば沢山のほかのツアーとの鉢合わせもある。バッヂは大切な身分証明書、つまりは黄門様の印篭みたいな必需品なのだ。

行ってみてそのことは確かにわかったのだが、テイサイの悪さはどうにもならない。第一、バッヂをつけていると、スリや置引きが、すり寄ってくるような気がする。そこで少々皆から離れて雑踏を歩いた。すると添乗員曰く「離れていると、スリにねらわれ易いんですよ」